

「なぜ近代スポーツは日本で生まれなかったか」
The reason why modern sports were not born in Japan
1K03B194-6 山岡 佑
指導教員 主査 志々田文明 先生 副査 石井昌幸 先生

【目的】

近代スポーツとは一般的に「本来気晴らしのために楽しむ非日常的遊戯的行為であって、ルールに基づいた客観的成績によって勝敗を競う競技の性格を持ち、全身を使っで行なわれる、西欧で生まれた身体活動」と理解されることが多く、現在日本をはじめ、世界的に人気のあるスポーツの大半がこの近代スポーツに分類される。けれどもこの定義から見てもわかるようにこれらのスポーツは日本で生まれたものではない。スポーツはそれを行なう人々の文化や精神を反映するということはスポーツ科学という研究分野においてもはや自明のことだが、このことを踏まえると近代スポーツが日本で生まれなかった要因は単に競技や種目などの個別性だけでなく、それを支える文化、精神性における相違、つまり日本と西欧のスポーツ観、身体運動観に相違があったということが考えられる。その相違とはどういったもので、一体なぜ日本で近代スポーツが生まれなかったのかについて論考することがこの論文の目的である。

【方法】

近代スポーツとは一体何かを近代スポーツが西欧で誕生した流れの中で捉え、定義した上でそこに見られるスポーツ観・身体運動観を見出し、日本におけるスポーツ観・身体運動観と比較する。その際、近代スポーツの流れについては既存の文献を参考にする。日本のスポーツ観・身体運動観については、まず日本のスポーツ観・身体運動観に与えたであろう要因を風土・民族などの点においてふまえ、それによって生じた日本人の体の使い方、精神性について考える。さらに、そこから得られた日本人の体の使い方、精神性が日本で実際に行われてきた身体運動・スポーツ（舞踊、武術など）の中でどのように表れているか検証し、日本人のスポーツ観・身体運動観がどういったものであるか、またなぜ近代スポーツが日本で生まれなかったかを考える。この作業は風土・民族について考えるだけでも膨大な資料を要するため風土・民族については一般論として認識できるであろう事柄に焦点を絞り、そこから推測される体の使い方、精神性について述べ、それを舞踊や武術、武道誕生の歴史についての文献の中で検証する形をとる。

【結果】

歴史的にみると近代スポーツは移動、遊び、狩猟という

概念に自由主義・個人主義・民主主義などの思想が結び付けられることで西欧に生まれた。競技の特徴としては常に足を動かし、一対一を基本としながらもチームプレイによってゲームが進行され、最終的にはっきりと勝負の明暗が分かれる点にある。これは主として生活の糧を狩猟とする西欧人が狩猟の際に見せる獲物を捕獲するために常に足を動かす動作や、ある局面では個々の力量が問われつつも全体としては協力することが求められるという狩猟の作業に類似している。一方、稲作を中心とする農耕によって生活を行う日本人は生活の中ではむしろ手を使う事が多く、足はあまり動かさず地に着けたまま移動せずに動作を行う傾向が強い。また稲作は作業の行程も共同作業でありながら個人の責任の所在はわかりにくくなっており全体主義的な考え方が強い。さらに西欧と日本のいずれにおいてもが古来から祭などの儀式の中に身体運動を取り入れていたが、個人の力量により生活が左右される狩猟に比べ農耕は天候などの自然による影響を多分に受けるため自然を重んじる偶像崇拜から抜け出すことができず祭りの中で行われていた身体運動がスポーツとして独立できずにいた。武術や武道などの身体運動も遊びとして楽しむというよりは武士道を基本とする肉体訓練や精神修練のために行われていたため、近代スポーツの本質的な要素である身体運動を楽しむという感覚が日本人にはそもそも欠けていたと言える。こうした違いが日本と西欧のスポーツ観・身体運動観の相違であり、同時に日本で近代スポーツが生まれなかった原因なのである。

【考察】

日本と西欧のスポーツ観・身体運動観の違いは結果で述べたとおりだが、この要因は狩猟や農耕などの動作にそれぞれの身体の使い方などの点で類似しているものが多いことから考えると、やはり古来から行っていた狩猟・農耕という生活習慣にあると考えられる。そしてこれらの生活習慣は動作の中で西欧人・日本人の精神形態をある程度形づくると共に身体運動の中で無意識的な刷り込みを行ってきたのである。その意味ではスポーツや身体運動は人間の文化や思想を反映していると言われているが、むしろスポーツや身体運動が人間の文化・思想を逆に規定しているといえるのではないだろうか。